## 帽子屋で

**店員** いらっしゃいませ。何を差し上げましょう。

カール・ファレンティン帽子を下さい。

**店員** どんな帽子でしょうか?

KV かぶるための。

店員 そりゃあ、 帽子は着る訳には参りません。 いつだって、 かぶるしかあ

りません。

K V いつだってってことはないでしょう 例えば教会の中では帽子をか

ぶっている訳にはいきません。

店員 教会の中ではそうですけど いつでも教会にいらっ しゃ る訳ではあ

りませんでしょう。

KV いいえ、おりときです。

店員 ときおりですか?

K V ええ。 私はかぶったり脱 いだりできる帽子が欲しいんです。

店員 どんな帽子もかぶったり脱いだりできますよ。 柔らかい帽子がよろし

いんでしょうか、それとも硬いのでしょうか?

KV いいえ、灰色のを。

**店員** スタイルのことを申し上げてるんですが。

KV 無彩色のスタイルを。

店員 シックなスタイルでございますね 当店ではあらゆる色のシックな

スタイルを取りそろえてございます。

あらゆる色? そうしたら、 明るい黄色のを。

占員 しかし明るい黄色の帽子はカーニヴァルの時にしかございませんね。

明るい黄色の紳士帽など着用できませんでしょう。

**KV** 着用するつもりはない、かぶるだけです。

**店員** 明るい黄色の帽子では笑われますわ。

KV でも麦わら帽は明るい黄色でしょう?

**店員** ああ、お客様は麦わら帽をお求めですか?

**KV** いや、麦わら帽は燃える恐れがあるからね。

石綿帽は残念ながらございません。 すてきな柔らかいフェ ールト帽

ならございますわ。

K V フェルト帽には欠点があるな。 あれは頭から床に落ちても音がしない

からね。

店員 それなら、 鉄かぶとをお買いになるしかありませんでしょう。 あれで

したら、落としたら聞こえます。

K V 民間人としては鉄かぶとをかぶる訳にはいかないですよ。

店員 どのような帽子になさるか、 そろそろ決めていただきませんと。

KV 新しい帽子を頼みます。

**店員** 当店には新品しかございません。

**KV** 私は新しい帽子が欲しいんですよ。

店員 ですが、どのような新しいものでしょうか?

KV 紳士帽の。

**店員** 婦人帽は当店では扱っておりません。

KV 婦人帽はいりませんよ。

店員 応対の難しいお客様ですね。ひとつ、いくつかお見せい たしましょう。

K V くつかとは何ですか。 一つでいいんです。 頭は一つしか ない んだか

5°

店員 いえ、 選択していただこうと、 いくつかお見せするのです。

K V 選択なんていりませんよ。私に合う帽子が欲しいんです。

店員 もちろん合う帽子がございますよ。 頭のサイズをおっ しゃって下され

ば、合う帽子をお出しいたします。

私の頭のサイズはあなたが考えるよりはるかに大きくない。 頭のサイ

ズは五十五だが でも、六十のを出して下さい。

店員 そんなことをしたら、 帽子が大きすぎるでしょうに。

K V でも、 その方がすわりがいいんです。 五サイズ小さい のだと、 すぐに

落ちてしまう。

馬鹿馬鹿しいですわ。 頭のサイズが五十五なら、 帽子のサイズも五十

五です。昔からそう決まってます。

昔からね。 店の人たちが昔の習慣やしきたりにこだわって、 時代

と共に進まないのは、まったく嘆かわしいですな

帽子のサイズが新しい時代と何の関係があるんです?

しておるんですよ。 失礼ですが、 人間の頭はいつまでも変わらぬものではなく、 常に変化

店員 したけどね。 中身はね でも外側は変わってませんわ。 人間はずいぶん進歩しま

店員 K V ええ、 でも、新しい時代のそれではなく、 あなたはその大きさを知りたがっていらっ お客様の頭の大きさですけど。 しゃ いましたな。

私はただ、 いわゆる古き良き時代の 人間は今日の 人間とはちがう頭を

持っ ていたのだと教えてあげたかったのです。

サイズは五十五です。 それにモダンですわ。 それぞれちがう頭を持ってるでしょうよ。 ついてお話してるのではなくて、 私のおっ 馬鹿げてますわ しゃるようになさって下さいな。この帽子はいかがでしょう。 お値段は十五マルク。すてきですし、 もちろん、 お客様の頭の大きさのことをお話し 一人一人の人間は、 でもここでは、それらの一つ一つに 良いお品ですし、 人類の誕生以来、 てるんで

K V んですから。この帽子はモダンだって、おっ もちろん、アドバイスに従いますよ。 しゃったんですね。 何といってもあなたは専門家な

主張 んで 店員 している人たちがおりますけどね。 しょうが、 ええ。 今、モダンと申しましたら、そうですね、 夏も冬も帽子なしで外を歩き回って、それこそ一番モダンだと いわゆる変わり者な

私も帽子はやめにします。 そうですか、帽子をかぶらないのが一番モダンなんですか。それなら、 さようなら。